



東京赤坂ロータリークラブ週報
Weekly Report

2013~2014年度クラブテーマ
会長 西澤 民夫

「みんなで参加、心地よいチャレンジを！」
Join Together with Good Challenge!

●本日の例会/ 2014年 5月 30日 第1303回

卓話：「ゴルフの道一筋50年」
～三ゴの趣味に生かされて～
株式会社桜ゴルフ 代表取締役 佐川 八重子 氏

●前回報告／2014年 5月 23日 第1302回例会

卓話：「東京スカイツリーよもやま話」
株式会社 日建設計
東北支社 社長代理 有田幸生 氏



卓話紹介：橋本年男会員

会長報告：

①畠中会員の落語会開催のお知らせです。
日時：2014年6月22日（日）15:00 開園(14:30 開場)
場所：みぎわ亭（畠中宅）逗子市桜山8丁目
(事前お申し込みの際、詳細ご連絡します)
電話：090-2629-9344
出演：入船亭扇好（真打）
木戸銭：3,000円

なお、高座終了後懇親会を囲んで軽食を準備しております。ご家族ご友人お誘い合わせの上何卒お運びくださいますようお願い申し上げます。

②佐久間会員が親睦旅行のときに、西郷隆盛についての本を自分の社から刊行すべく準備中だと言っておりました。西郷の残したことばをビジネス・リーダー向けに読み解いた内容だそうです。また、佐久間氏は児童を対象としたユニークな偉人伝『この人を見よ！歴史をつくった人びと伝』（ポプ ラ社）を企画・編集もしております、すでに30巻のシリーズとなっています。私も孫と一緒に読みましたが、おとなでも大変勉強になる内容でした。皆様も機会があればご一読オススメいたします。

東京赤坂ロータリークラブ

NO. 1194 / 2014.05.30

例会/ANA インターコンチネンタルホテル東京

Tel 03-3505-1111

事務局/〒107-0052 東京都港区赤坂 2-19-8

赤坂 2丁目アネックス 3F

Tel 03-3505-5976

Fax 03-3505-6004

<http://www.akasakarotary.com/>

親睦活動委員会：(小林委員長)

- ① 6月27日（金）に打上会を開催されます。後日改めてご連絡いたしますが、よろしくお願い申し上げます。
- ② 6月9日（金）18:00～新会員歓迎会を行います。場所はちゃんと玉海力銀座店、会費は7,000円です。宜しくお願い申し上げます。
- ③ 第24回日本ロータリー親善ゴルフ北海道大会（6/23開催）のご案内が届いております。後日メールでご連絡いたしますので、ご興味のある方は、ご参加ください。



5月 23日(金) / 11件 22,000円
累計 1,106,000円

多額の寄付を有難うございました。(敬称略)

西澤民夫/有田様、本日はよろしくお願ひします。先週（土・日・月）は39度の熱が出て3日間寝てました。佐久間さんの偉人伝集30巻はすごいですね!!田村昭二/小原さん、今週の日、月はお世話になりました。久しぶりに気合を入れたゴルフでした。菅沼さんニコニコご苦労様です。橋本年男/有田様、本日の卓話大変樂しみです。スカイツリーも本日から開業3年目に入りますね！菅沼さんニコニコご苦労さまです。尾関武男/先週、休みました。菅沼さんニコニコします。石井謙次/河邊さん先週の日経記事見ましたよ。菅沼さんニコニコご苦労様です。入沢頼二/菅沼さん御苦労さまです。岩上義明/火曜日はお騒がせいたしました（うちのビルが）菅沼さんニコニコご苦労様です。土屋東一/菅沼さんニコニコご苦労さまです。穂苅裕久/有田さん、スカイツリーのお話樂しみです。菅沼さんニコニコお疲れ様です。関陽一/良い季節になりましたね。菅沼さん、お疲れ様です。佐藤仁/菅沼さんニコニコご苦労様です。次週から2回欠席させていただきます。よろしくお願ひします。

出席報告：会員 39名／出席 25名 欠席 14名

ゲスト：有田幸生（卓話）

ビジター：レトレロイック（東京RC）、岡田敏江（東京中央新RC）、魏芝（東京中央新RC）
(計5名 順不同・敬称略)

●次回予告/ 2014年 6月 6日 第1304例会

移動例会（場所：国際文化会館）

卓話予定：「米中の狭間で揺れる日本」
ジャーナリスト 高野孟 氏

第 21 回 「障害者は外に出よう」 報告

去る、5月25日（日）風の子会主催「障害者は外に出よう」が開催され、当クラブからは13名の参加協力を頂きました。

今年度の表題は「そうだ！京浜急行に乗ろう。途中下車の旅」と題しまして、第1班から第9班まで、各班の計画により京急沿線の各地を楽しむ旅となりました。それぞれの班は、川崎大師を参詣したり、羽田空港へ、横浜中華街へ、又遠くは三浦海岸まで足を伸ばした班もあり、各班とも爽やかな初夏の風に吹かれながら、各方面の散策を障害者の皆さんと共に楽しんでまいりました。

午後4時には、最終集合場所のJR品川駅港南口に帰着、笑顔の記念撮影。解散後、当クラブの参加者は、附近の会場にて「反省会」を開催、各参加会員より感想や所感の意見交換を行いました。そして懇親会となり、ボランティアの後の最高に美味なるビールにて乾杯！午後7時に解散いたしました。

今年度は初めて参加された会員が6名、そして秦会員のご子息 秦 克磨君（11才）の過去最年少参加を頂きました。これらの初参加された会員の皆さんからは、異口同音に「参加してよかったです！」との感慨を頂きました。引き続き次年度も奮っての参加、ご協力を心よりお願い致します。

（社会奉仕委員長 岩上義明記）



参加者：畠中一郎、
石井達、岩上義明、
清水實、佐藤仁、
尾関武男、川邊幸夫、
野田真司、橋本年男、
金山驥、田村昭二、
秦一成、秦克磨
以上 13 名



ロータリーの始まりの日

それは、1905（明治38）年2月23日である。この頃は、自動車がようやく実用化の段階に入ったばかりで、まだ馬車の方が巾をきかしており、飛行機もそれより約1年ばかり前、ライト兄弟によって発明されていたが、ほんの2～3分間空に浮かぶことができるという程度であった。（日本で云えば、日露戦役の終った年にあたる）

この年の2月23日の晩、米国イリノイ州シカゴのデアボーン街にあるユニティ・ビルの711号室に4人が集まつた。4人というのは、弁護士のポール・P・ハリス、石炭商のシルベスター・シール、鉱山技師のガスタバースE.ローラー、洋服商のハイラム・ショーレーである。“ガス”ローラーの事務所であるこの部屋は狭く、机が1つとあまり掛け心地のよくない椅子が四つおかれており、隅に洋服掛けがあり、壁には写真が1～2枚と工事関係の図表がかかっている。当時ありふれた事務所であったようだ。4人は、ポール・ハリスが過去5年の間あたためてきたアイデアについて語り合つた。簡単に云うと、お互いの事業あるいは職業上の結びつきを通じて、友好的交友関係を築くことができるはずであり、またそうすべきであるというのである。仕事の上での関係が、友情の妨げとなることはないと、ポールは考えたのである。

上記の文章は、「国際ロータリー・広報提供」として『ロータリーの友』1969年2月号に掲載された「ロータリーの始まった日」というタイトルの記事の冒頭です。ポール・ハリスが若いころ、5年の予定で放浪生活をしていたことは、ご存じの方も多いと思います。予定の5年に、3か月を残していたころ、弁護士事務所を開くためにシカゴにやってきた、と『MY ROAD TO ROTARY（ロータリーへの私の道）』には書かれています。

しかし、喧騒とした大都会で、彼は孤独を感じていました。そんな時、ポール・ハリスはある経験をします。そして、その経験が、ロータリーをつくるきっかけになりました。「ある晩、私は同業の友人に連れられて、郊外の彼の家を訪れました。夕食後、近所を散歩していると、友人は、店の前を通るごとに、店の主人と名を呼んで挨拶するのです。これを見て私は、ニューイングランドの私の村を思い出しました。そのとき浮かんだ考えは、どうにかしてこの大きなシカゴで、さまざまな職業からひとりずつ、政治や宗教に関係なく、お互いの意見をひろく許しあえるような人を選び出して、ひとつの親睦関係をつくれないものだろうか、ということでした。こういう親睦関係ができれば、必ずお互いに助け合うことになるはずです」と、前出の『MY ROAD TO ROTARY』に書いています。

1905年2月23日。ロータリーの会合が初めて開かれたこの日、その会合の前に、ポール・ハリスは、シルベスター・シールと夕食を共にしています。『奉仕の一世纪』には、「その日の午後遅く、ポールとシルベスターはマダム・ガリのレストランで夕食を共にし、親睦とビジネスを推進するクラブという構想について話し合つた。（中略）夕食後、ポールとシルベスターはディアボーン・ストリート127番地のユニティ・ビル7階にあるローラーの事務所まで歩いて行った」と、書かれています。

ところでこの時、二人は何を食べたのでしょうか。この質問に対する答えは、ここには書かれていませんが、『The National Rotarian』（『The Rotarian』の前身）1912年3月号に見ることができます。その中でポール・ハリスは「私は、シールと私がマダム・ガリの店に行ってスパゲティ・ディナーを食べたのをよく覚えています」と述べています。

皆さまも、二人のように、スパゲティを食べながら、ロータリーについて語り合ってみてはいかがですか。
（「ロータリーの友」2013年2月号はじまる一歩より）